第８３７号　ヤスクニ通信　２０２４年１０月１３日

日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会

＜祈りのために＞

「荒廃をもたらす憎むべきものが、立ってはならない所に立つのを見たら―読者は悟れ―、その時、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。」（マルコ 13：15、聖書協会共同訳）

イエス様は「逃げなさい」と言われます。物や名を失ってでも、生きて永らえよと命じられるのです。神様が一人一人にお与えになった命こそが宝であり、神のかたちであるはずの人のかたちを傷つけ、損ない、奪うことは、神様のみこころに背くことだからです。

「荒廃をもたらす憎むべきものが、立ってはならない所に立つ」との言葉は、シリアのアンティオコス 4 世が、支配地域を政治的のみならず文化的さらには宗教的にも統一しようとして強制的なヘレニズム化を行ったこと、ユダヤ人に「みんなと同じ」であることを要求し、神殿をゼウス神殿に造り替え、割礼や食物規定を守ることを禁止したこと、自らを「エピファネス」（目に見えないものの目に見える世界への現れ）と呼ばせ、「現人神」（あらひとがみ）であると主張したことを思い起こさせたでしょう。さらに、これに対してユダ・マカベヤらが、安息日にも武器を取って戦い、ついにエルサレムの奪還と神殿の再奉献（紀元前 165 年）を果たしたマカベヤ戦争のことを思い起したに違いありません。

同時に、繰り返される熱心党らの武力闘争と当局の弾圧、緊張の高まる当時の社会状況を重ねたことでしょう。そして 66 年、ローマ総督がエルサレムの工事のため神殿の什器を持ち出したことをきっかけにユダヤ戦争が勃発します。ローマは三個軍団をもって鎮圧を図り、ついに 70 年にエルサレムは陥落。神殿はイエス様の警告の通り崩れ去ります。

このとき、壮麗なエルサレム神殿や頑強なアントニウス要塞に頼った人々は命を失いました。ですから「山に逃げよ」とは文字通りの山のことではないでしょう。じっさい、降伏をよしとせず、山の上の要害マサダに立てこもった強硬派は、避難民の投降をすら許さず、最終的に集団自決という名の強制集団死を神の名において人々に強いたのです。

山とは、モーセがシナイ山で十戒を授り、イエス様が山の上に登って教えられたように、神の言葉、イエス様の教えのことではなかったでしょうか。そして、ユダヤ戦争を生き延びたのは、神殿での祭儀よりも会堂での律法の学びを重んじたファリサイ派の人々と、「逃げよ」とのイエス様の言葉に従ってエルサレムを脱出した教会だったのです。

イエス様は、いかなる場合であろうと、弟子たちが武器を取ること、血を流すことを否定されます。民族や国、理想や大義といった抽象的なもの、よくよく考えれば人の頭の中にしかない仮構（かりそめ）の存在のために、決してひとくくりにしてはならない、取り替えのきかない一人の人が傷つき、命を失うことをイエス様は退けられるのです。

ベツレヘムの馬小屋に生まれ、ゴルゴダの十字架に死なれたイエス様は、いつも、追われる側、奪われる側、傷つけられる側、そして殺される側におられました。そして今も殺す側ではなく殺される側におられて、殺すことを正当化するすべての言説に対して、ただただ単純に、明白に、殺すな、殺されるな、殺させるなと命じられ、そして、生きよ、生きさせよ、共に生きよと招いておられるのです。

〈祈り〉殺すなと命じられ、剣を鞘に納めなさいと言われる主の言葉に従うものたちとさせてください。

（芳賀繁浩　福島伝道所牧師）

新シリーズ『日本キリスト教会大信仰問答』第 14 章「終わりの日」を読む（第 2 回）

粂 広国（函館相生教会牧師）

わたしをつかわされたかたのみこころは、わたしに与えて下さった者を、わたしがひとりも失わずに、終りの日によみがえらせることである。わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう。ヨハネ 6：39－40

わたしの語ったその言葉が、終りの日にその人をさばくであろう。ヨハネ 12：48

あなたがたは、終りの時に啓示されるべき救いにあずかるために、信仰により神の御力に守られているのである。Ｉペトロ 1：5

問２７９　終わりとは、どういうことですか。
答　この世の終わりをいうのです。すなわち、この世の秩序が神によって終わりを告げられ、すべてのものの究極の目的が明らかにされ、神の完全な支配が打ち立てられることです。

新 Q279－1 この世の終わりについて、主イエスはどのように教えておられますか？
新 A279－1　主イエスは弟子たちに「毒麦のたとえ」を語られました（マタイ 13：24－30）。それは、ある人が良い種を畑にまいたのに、眠っている時に敵が来て毒麦を蒔き、芽が出て実ると、良い麦と毒麦が混じっていたが、主人は刈り入れまで両方とも育つままにしておき、刈り入れの時、まず毒麦を集め、焼くために束にし、良い麦は倉に入れるよう命じたたとえです。たとえの説明を求められると主イエスは「良い種を蒔く者は人の子、畑は世界、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らである。毒麦を蒔いた敵は悪魔、刈り入れは世の終わりのことで、刈り入れる者は天使たちである」（マタイ 13：38－39）と答えました。主イエスはこのたとえで、「天の国」について語り、それが終わりの日に完成するということを教えたのです。

新 Q279－2 この世の秩序が神によって終わりを告げられるとは、どういうことですか？
新 A279－2　この世の秩序は神を神として崇めず、人間を神にして支配していますが、復活して天に上げられたキリストは全能の父なる神の右に座し、終わりの時には、「そこから来て、生きている者と死んでいる者とを裁かれます」（使徒信条）。主は「審判者」として再び来られ、この世の秩序は終わりを告げられるのです。

新 Q279－3　すべてのものの究極の目的とは、何ですか？
新 A279－3　神がすべてにおいてすべてとなられる（コリント一 15：28）ことです。父・子・聖霊なる三位一体の神は、創造・救い・完成の御業を成し遂げられ、天地万物に再び神の支配を回復し、被造物はこぞって主を礼拝するのです。救われた人は、神と共に永遠に生きるのです。

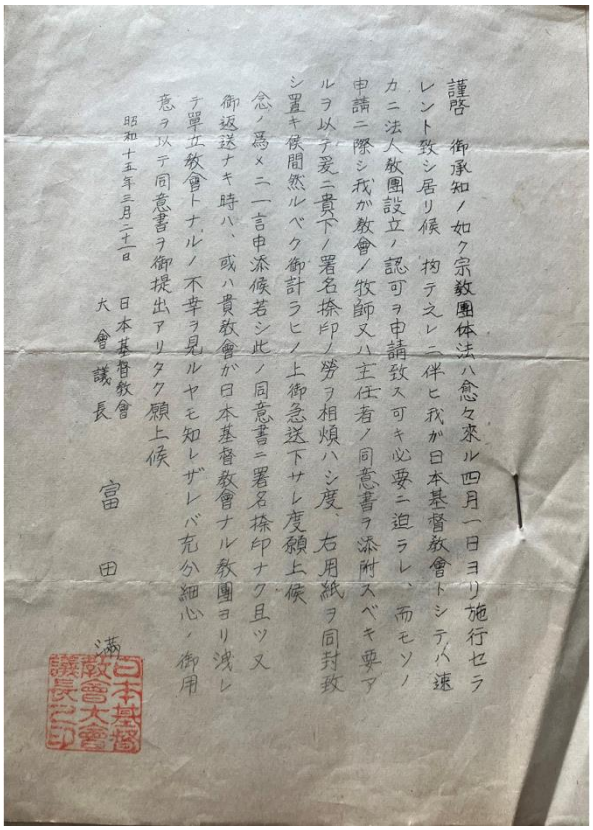
新 Q279－4　終わりの日にそなえて、私たちは、どうあるべきですか？
新 A279－4　ペトロの手紙一 4：7 では次のように勧められています。「万物の終わりが迫っています。だから、思慮深くふるまい、身を慎んで、よく祈りなさい。何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです」。これは日本キリスト教会信仰の告白に告白されているように終わりの日に備えつつ、主が来られるのを待ち望む終末的信仰でもあるのです。

連載１「戦時下の教会資料発掘報告」（北海道中会ヤスクニ・社会問題委員会ニュース 2024 年春号より転載）

畑知佳（遠軽教会牧師）

はじめに

遠軽教会の倉庫と化している二階の一室から、1940 年施行の旧宗教団体法に関する資料の一式が見つかりました。これは、かつての長老が個人的に取り分け、戦後の宗教法人法に関する資料と共に整理したもののようですが、旧宗教団体法全文や認可要請の為に役場へ提出した書類の写しのほか、当時の大会議長富田満の教団加盟申請に関する通達文書や日本基督教団第一部会報などが含まれていました。



謹啓　御承知ノ如ク宗教團体法ハ愈々來ル四月一日ヨリ施行セラレント致シ居リ候　扨テ之レニ伴ヒ我カ日本基督教會トシテハ速カニ法人教團設立ノ認可ヲ申請致ス可キ必要ニ迫ラレ、而モソノ申請ニ際シ我カ教會ノ牧師又ハ主任者ノ同意書ヲ添附スベキ要アルヲ以テ爰ニ貴下ノ署名捺印ノ勞ヲ相煩ハシ度、右用紙ヲ同封致シ置キ候間然ルベク御計ラヒノ上御急送下サレ度願上候

念ノ爲メ二一言申添候若シ此ノ同意書ニ署名捺印ナク且ツ又御返送ナキ時ハ、或ハ貴教會ガ日本基督教會ナル教團ヨリ淺レテ單立教會トナルノ不幸ヲ見ルヤモ知レザレバ充分細心ノ御用意ヲ以テ同意書ヲ御提出アリタク願上候

昭和十五年三月二十一日　日本基督教會
大會議長　富田満

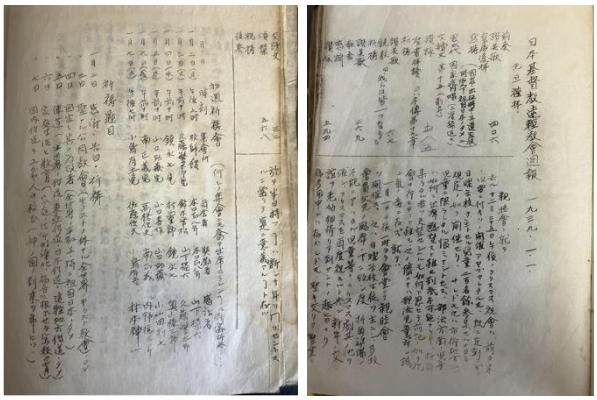
↑　昭和１５年３月２１日付、日本基督教會大會議長富田満名で届いた文書。「我ガ日本基督教會トシテ速ヤカニ法人教團設立ノ認可ヲ申請致ス可キ必要ニ迫ラレ…」と教団加盟申請を促す。（ガリ版刷り）

私は当時の第一次資料に直接触れたのは初めてでしたので大変驚きましたが、これをどう取り扱ってよいか分からず、暫くそのままに放置していました。しかし、やがて中会ヤスクニ・社会問題委員の一人に選ばれ、委員長の渡辺輝夫牧師に資料の存在を伝えることができました。けれども、まさか大会靖国神社特別問題委員会でもこれが取り上げられ、昨年 10 月には同委員会主催の全国協議会で発表することになるとは思いませんでした。というのも、こうした歴史資料に関して既に検証された見識について、私の方が先輩方から教えて頂きたい、またそうして頂けるものだと考えていたからです。私は戦後 40 年ほど経って生まれた世代ですが、日キにおける靖国問題の取り組みはそれ以上の歴史があります。ですから、きっと先輩方はこうした資料も見慣れているのだろうと思っていました。でも、そうではないということが分かり、二重の驚きでした。こういうわけで、委員会として初めて行うこととなった第一次資料の掘り起こし作業に私自身も携わることとなり、特に私は最初に見つかった資料の他にどんな資料が遠軽教会に残っているのかを一から調べ直すこととなりました。そうして、当時の週報や小会及び総会の記録、集会案内や青年会記録などを見出すこととなりました。

その中でも週報に残された記録は、当時の礼拝の様子は勿論、会員の動向や集会状況、大中会からの連絡事項などの多岐にわたる情報が詰まっていて、とても貴重な資料です。そこで、ここからは週報の情報を中心に当時の遠軽教会の様子をお伝えしたいと思います。

教会の報国実践
–前線・銃後一体の奉仕の具体例–
１．礼拝における国民儀礼の実施

まず当時の礼拝についてです。皇居遥拝と国歌斉唱が礼拝式文中に挿入された最初の週報は、1939 年１月１日の元旦礼拝で、同年４月７日の旧宗教団体法成立を直前に控えた時期でした。



↑１９３９年元旦礼拝、初週祈祷会の週報。遠軽教会においては、国民儀礼が最初に入れられた週報

（次号に続く）

＜靖国関連ニュース＞

○靖国集団参拝の始まり　海自練習艦隊　６２年前

海上自衛隊練習艦隊の実習幹部による靖国神社（東京都千代田区）への集団参拝が６２年前の１９６２年から始まっていたことが１日、本紙の調べで分かりました。同神社は、旧日本軍を対外侵略に駆り立てる精神的支柱でした。戦後発足した自衛隊による旧日本軍への回帰志向が、戦後わずか１７年後にはじまっていたことになります。

同神社の社報『やすくに』（現在は『靖国』）によると、６２年６月５日に１７０人が参拝したとしています。記事には「遠洋航海に先立ち参拝した事は戦後初めての事である」（６２年６月１５日号）としています。

この時期、集団参拝は海自だけでなく陸上自衛隊でも始まりました。

『やすくに』（６５年８月１５日号）では、陸上自衛隊第一師団が参拝したと報じています。記事では「陸上自衛隊が堂々と隊伍（たいご）を整え靖国神社に参拝をしたのは自衛隊創設以来今回が初めての事である」。

さらには「今回の参拝は第一師団が指標としている『伝統の継承と英霊の敬拝』の実践であり、又旧近衛、第一両師団先輩英霊に対する敬拝式でもある」と旧日本軍の継承を意図したものとしています。

また、部隊での参拝を禁じた事務次官通達が出された１９７４年前後数年の『やすくに』に、自衛隊の集団参拝を報じる記事がなくなります。陸自第一師団による集団参拝は、１９６７年を最後に記事が見られなくなります。一方、海自練習艦隊の集団参拝は、“恒例行事”として６０年以上続けられていることがわかります。

海自練習艦隊の初級幹部は今年５月に「研修」の名目で、靖国神社内にある展示施設「遊就館」に訪れています。防衛省は本紙の取材に、「研修中の移動については、公用車を利用した」としています。また「事務次官通達に違反する行為があったとの報告は受けておりません」と防衛省は説明しますが、「研修」の中身が問われます。（しんぶん赤旗、24.09.02）

○コラム「筆洗」

「一石日和（いちこくびより）」とは雨が降るような降らないような定まらない天気のことをいうそうだ▼その昔、筑紫（福岡県）でそんな天気を「降るごと（如）降るまいごと（如）」といった。如（五斗）が二つ。尺貫法で合わせて「一石」というしゃれらしい▼「黒い雨」は降ったのか降らなかったのか。長崎原爆の被害を巡る新たな司法判断が出た。長崎地裁は国が定めた援護対象区域の外にある長崎市東部でも放射性物質を含む「黒い雨」が降ったと認定し、15 人を被爆者と認めた。これまでは被爆者ではなく「被爆体験者」とされ、医療費など国からの支援も限られていた人々である▼援護対象区域外で「黒い雨」を浴びた住民らを被爆者と認めた判断は初めてだが、東部以外の地域にいた 29 人の訴えは退けられた▼29 人がいた地域では放射性降下物が降った的確な証拠がないという。広島原爆を巡る広島高裁判決では黒い雨を直接浴びずとも内部被ばくの可能性があれば被爆者に該当するとしたが、これとは異なる判断で被爆者と認めるには「黒い雨」が降ったという立証が必要という姿勢を崩さなかった。同じ原爆被害でも広島と長崎で認定に差があるのは原告団には納得できまい▼降ったのか降らなかったのか、はっきりしない雨。疑わしきは救済をという訴えに別の雨が降るか。「空知らぬ雨」。空と関係ない雨とは涙のことをいう。（東京新聞、24.09.11）

○朝鮮人虐殺、割れる対応　埼玉・千葉知事が追悼文、小池氏なし

関東大震災から１０１年。当時、「朝鮮人が略奪や放火をした」などの流言飛語が広まり、多くの朝鮮人らが殺害された。虐殺の犠牲者らを追悼する式典に、今年も東京都の小池百合子知事は追悼文を送らなかったが、埼玉、千葉両県の知事は相次ぎ追悼文を寄せた。背景には、各地で公的記録や証言を掘り起こしてきた市民たちの危機感があった。

東京都立横網町公園では毎年、虐殺された人を含む朝鮮人犠牲者の追悼式典が行われ、日朝協会などの実行委員会の求めに応じて、歴代知事が追悼文を寄せてきた。しかし、小池知事は８年連続で送っていない。理由については、同日にある震災犠牲者を悼む大法要で「全ての方々へ哀悼の意を表している」とする説明を繰り返してきた。

この対応に対し、１日にあった式典で、宮川泰彦実行委員長は、「過去の歴史から逃げ回るのではなく、きちんと認めてほしい」と語った。

一方、埼玉、千葉では、式を主催する市民団体が初めて追悼文を依頼し、両県の知事が応じた。（以下略）

（朝日新聞、田渕紫織、24.09.20）

＜編集後記＞自民党総裁選が行われる中で「改革」という言葉が空しく響いている。改革主義を掲げる私たちはどうなのか。この通信が、改革の一助となることを願う。K.K.

837号ヤスクニ通信　2024年10月13日
発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会
発行人・編集・発行 小塩海平（東京告白教会）